



たわらもとウォッチング

まちのできごとを紹介します



緑の人工芝でおおわれた広いグラウンドで、いきいきとプレー
田原本5園交流サッカー大会



3月20日、県フットボールセンターで「田原本町5園交流サッカー大会」が開催されました。これは、町内の幼稚園児（年長）の体向上と今春小学校に入学する年長児が交流するとともに、ボールを蹴る楽しみを身近に味わえる機会を提供し、体力づくりに努めることを目的とするものです。

各園の年長児は、年4回にわたり県サッカー協会の指導を受けてきました。この取り組みんだ成果を発揮すべく47人が参加しました。

試合方式は5人制のミニサッカーで、10チームが対戦。県サッカー協会と小学5年生以上の女子が所属する奈良元気サッカークラブ「卑弥呼」の協力のもと試合が行われました。

はじめに、県サッカー協会事務局長の北野和好さんが、「人工芝の広いところでボール遊びを体験することで、体育の授業に積極的になってくれれば」とサッカー大会の趣旨を説明しました。

その後、園児たちはグラウンドの中央に集まり、お互いに「お願いします」と大きな声であいさつすると、ホイッスルが鳴り試合が始まりました。

「前へ！ 前へ！」と声援が飛ぶな





①声援のなかドリブルでボールを前へ②号令とともに人工芝の上を駆ける園児たち③ハーフタイム中にボールで遊ぶ④試合開始前に一礼⑤大人顔負けの競り合い⑥ゴールを決めて喜ぶ園児たち⑦試合が終了しお母さんの元へ駆け寄りお母さんの元へ駆け寄りお母さんの元へ駆け寄り⑧子どもの活躍をビデオカメラなどで撮影⑨お世話になったお姉さんにあいさつ

②



③



⑦



⑥



⑨

か、果敢にボールを前に蹴ったりドリブルしたりしてゴールを目指します。途中、激しいボールの競り合いがあり、真剣そのもの。ゴールを決めると、園児たちはグラウンドを駆け巡って喜びを表現し、周囲からは大きな歓声や拍手が沸き起こりました。

試合開始10分後、ホイッスルが鳴り試合が終わると、園児たちはグラウンドの中央に再び集まり「ありがとうございしました」とお互いの健闘を讃え合いました。園児たちはグラウンドの外で待つお父さんやお母さんのところへ駆け寄り、親子の絆を深めていました。すべての試合が終了すると、園児たちはお世話になった「卑弥呼」のクラブ員たちに「ありがとうございしました」と元気よくあいさつしました。最後に、参加賞として園児全員にメダルが渡されました。園児たちは、メダルを首にかけてチームメイトと記念撮影をしていました。